

なかま



プリンストン日本語学校

平成27年度 No.42

平成28年3月13日

文責 荒川雄之 arakawa@pcjls.org



卒園・卒業・修了おめでとうございます

児童・生徒の皆さんへ。

今日は本校の卒園・卒業式。あわせて、平成27年度の本最終授業日となります。君たちの多くは、4月3日から本校に進級・入学し、また、新たな気持ちで学びを続けていくことになります。また、ある子どもたちは、日本への帰国の途につき、新しい学校・新しい生活への挑戦が始まります。高等部を卒業することにより補習校の学びから離れることになる生徒もいます。君たちは、今日を境に様々な道を進んでいきますが、どの子も頑張ってきたという事実には変わりありません。プリンストン日本語学校の児童・生徒の皆さん、この一年、君たちが頑張ってきたことに感謝します。頑張る君たちがいるからこそ、この学校があるのですよ。「人に勝つ者は力あり、自らに勝つ者は強し」(老子:古代中国の思想家)。君たちは強い人間としても育っています。そして、君たちを支え、学校を支え続けてくれたお父さん・お母さんたちにも心より感謝します。「おかげさまは、人間でなくては十分に体験せられぬのであります」とは仏教学者の鈴木大拙さんの言葉ですが、今年のプリンストン日本語学校にも「おかげさま」が溢れていました。

一昨日・・・

一昨日の3月11日で、東日本大震災から5年が経ちました。被災された皆様には心よりの哀悼の念を禁じえません。5年前、千葉市では中学校の卒業式が行われた日でした。多くの子どもたちは下校した後でしたが、遠く離れた千葉市でもプールの水が外にバシャバシャと飛び出すほどに揺れは大きく、残っていた保護者を抱えるようにして外に運び出したことを覚えています。



地震の際の恐怖、それに続いた津波への驚き。そして、思いもよらない多くの方の被害への悲しみ。原発の事故も、その後長い間学校生活に影響を与えることになりました。4月に私が異動した学校では、グラウンドが液状化でうねり、体育館の床が大きく傾いて、入学式も、体育・部活動もできない状況でした。それでも被災地では、多くの人たちのボランティア、地元の人たちの努力により、復興の道が開かれてきています。願わくば、本校の子どもたちにも、震災により亡くなられた方たちの哀悼の気持ちと、共に助け合う共助の精神、そして、困難にあってもあきらめることなく故郷をよみがえらせようと努力する人々の前向きな逞しい姿を、心に残していきたいと願っています。併せて、ここ米国をはじめとする世界各国からの支援への感謝と、未曾有の混乱のなか、節度と秩序を保ち続けた日本という国の国民性も、留めておかせたいことだと思います。



お世話になりました。

本年度で退職・休職される先生方

5年生担任 羽室嘉智先生 (退職)
1年生副担任 ブロック由利子先生 (休職)
Pコース中高低学年担任 黒川和子先生 (退職)

それぞれの立場で、ご活躍いただいた先生たちです。これまでのご尽力、ありがとうございました。また、保護者の皆様には、各先生に多くの応援をいただきました。改めて、感謝申し上げます。

お知らせ

◆4月3日の予定は次のとおりです。

入学式 13:30 入園式 15:00

Bart Luedeke Theater (Student Center)

当日は教科書や副教材が配布されます。教室訪問の時間帯は次の通りです。

14:45-15:00 小4~6、中学部、高等部

15:00-15:15 小1~3、プリンストンコース

※本日「入学のしおり」を配信する予定でしたが、来賓等が確定しないため、本紙面をもってご案内します。

4月3日用に配信予定です。

◆春休みの事務所は通常通り開いていますが、訪問される場合は予め連絡の上おこしください。

教室で・・・



◆JASLでは「紙芝居発表会」を開催しました。自作の紙芝居を演じたり、タラ先生の紙芝居を熱心に聞いていました。参加した保護者の皆さんも、思わず知らず聞き入っていました。

夏時間

3月13日より夏時間となります。実質一時間早いスタートとなりますので、お間違えの無いように、ご注意ください。